

腋窩ポケット・経胸腔アプローチによる小児のペースメーカ治療：リード不全とポケット合併症を回避する工夫と中期遠隔成績

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2013-11-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小坂, 由道 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/30279

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙第 2785 号	氏 名	小坂 由道
審 査 委 員 会	主 査 教 授	山崎 健二	
<p>論文審査の要旨 (400 字以内)</p> <p>小児ペースメーカー治療では、成長に伴う解剖学的問題から通常の経静脈アプローチで心内膜リードを右心室に誘導し、ペースメーカー本体を鎖骨下に埋設する方法を取ることができない。そこで小児症例では、通常開胸手術で移植した心外膜リードを剣状突起下を通して上腹部へ植え込み本体と接続する方法 (剣状突起下アプローチ) が用いられている。しかしこの方法では、体幹の屈曲や呼吸に伴う機械的ストレスにより、リード断線が高頻度におこる問題があった。本研究では心外膜リードを肋間から腋窩へ誘導し腋窩へ本体を埋設する腋窩アプローチ法を応用し長期観察研究を行った。その結果 5 年のリード不全回避率を 72%から 94%へ大幅に改善できることを示した。実際の小児心臓外科治療の臨床に資する貴重な論文である。</p> <p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に学務部医学部大学院課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]</p>			

